JATMA ニュース NEWS
THE JAPAN AUTOMOBILE TYRE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.
No.1194
平成 27 年 10 月 14 日

タイヤ産業世界 CEO 会議開催について

１０月９日にフランス・シャンティイで、日本、欧州、米国、韓国を代表するタイヤメーカーのＣＥＯが一堂に会し、第６回目のタイヤ産業世界ＣＥＯ会議を開催致しました。これを受け、共同のリリースを纏めましたので、添付資料にてお知らせ致します。

参加企業
・株式会社ブリヂストン
・コンチネンタルAG
・クーパー・タイヤ・アンド・ラバー・カンパニー
・ザ・グッドイヤー・タイヤ・アンド・ラバー・カンパニー
・ハンコックタイヤ
・クムホタイヤ
・ミシュラングループ
・ピレリタイヤ
・住友ゴム工業株式会社
・東洋ゴム工業株式会社
・横浜ゴム株式会社

（アルファベット順）

日本からは、ブリヂストン 津谷ＣＥＯ、住友ゴム工業 池田社長、
横浜ゴム 野地社長が出席しました。

添付資料（計５枚）

１．プレスリリース
２．ＣＥＯ写真（出席者氏名）

本件に関するお問合せ先
一般社団法人日本自動車タイヤ協会 総務部（広報・渉外担当） 木下・大髙
電話 03-3435-9092 FAX 03-3435-9097

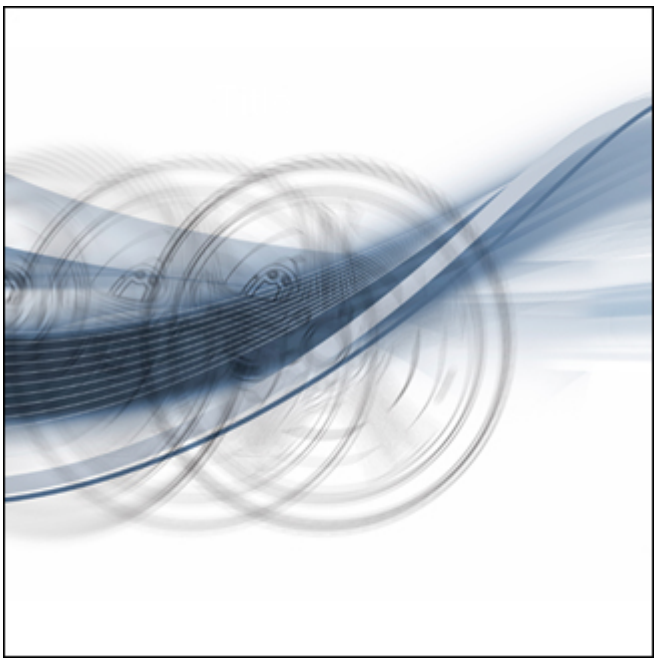
以上

wbcsd

2015 年 10 月 9 日

タイヤ産業プロジェクト CEO 会議

世界を代表するタイヤ会社の CEO が持続可能性（サステイナビリティ）に関する研究プロジェクトの継続的成果を発表



シャンティイ（仏）、2015 年 10 月 9 日 – 本日ここに集まった世界を代表するタイヤメーカーの最高経営責任者（CEO）は、タイヤが環境および健康に及ぼし得る影響について調査する現在継続中の国際研究プロジェクトの最新の結果を発表した。

包括的なリスクアセスメントに基づく、最近の主な研究成果は次の通り：

- タイヤ摩耗粉及び道路上の粉塵（TRWP）は、人体の健康と環境にとって安全だと考えられる。
- 経済協力開発機構（OECD）の最近の研究では、タイヤ用の新たなナノマテリアルの開発は社会にとって有益であると報告された。

Maison de la Paix I Chemin Eugène-Rigot 2 I CP 246 1211 Geneva 21, Switzerland
Tel: +41 (0)22 839 31 00, E-mail: info@wbcsd.org

欧州、日本、韓国、北米のタイヤメーカーを代表する CEO は 10 月 9 日、プロジェクトの進捗を検証し、継続中の研究に関する将来の議題を設定するため、シャンティイ（仏）で会議を開催した。

各社の CEO は 2005 年にタイヤ産業プロジェクト（TIP）を設立。今年はこの TIP の 10 周年の節目となる。TIP は World Business Council for Sustainable Development（WBCSD =「持続可能な発展のための世界経済人会議」）のもとで活動し、タイヤがそのライフサイクルにおいて、人体の健康や環境に及ぼし得る影響を特定し、これを解決することを目標としている。

TIP に参加する企業のタイヤ生産能力は世界の約 65%に相当する。アルファベット順では次の通り：

ブリヂストン、コンチネンタル・AG、クーパー・タイヤ・アンド・ラバー、グッドイヤー　タイヤ・アンド・ラバー、ハンコックタイヤ、クムホタイヤ、ミシュラン・グループ、ピレリ・タイヤ、住友ゴム工業株式会社、東洋ゴム工業株式会社、横浜ゴム株式会社。ブリヂストン、グッドイヤー、ミシュランは活動の共同代表を務めている。

欧州、日本、韓国、米国のタイヤ業界団体の代表も会議に出席し、グループの取り組みを支援した

尚、このプロジェクトの進捗内容については WBCSD によって選出された第三者保証グループにより客観的な視点で審議を受けており、最近では 2014-2015 年の活動を 2015 年 9 月 2 日に審議した。同グループのメンバーは次の通り：John Spengler 博士（ハーバード　T.H. Chan 公衆衛生大学院、米国）、Maria Blettner 博士（Institute of Medical Biometry, Epidemiology and Informatics (IMBEI)、ドイツ）、Emeric Frejafon 博士（INERIS – 産業環境危機管理局、フランス）、Lailai Li 博士（世界資源研究所中国支部、中国）、および谷口武俊博士（東京大学政策ビジョン研究センター、日本）。

この 2 年間、TIP が取り組んできた重要課題は次の 5 つ。

2.5 ミクロンサイズのタイヤ摩耗粉及び道路上の粉塵（TRWP）の及ぼし得る影響

- ロサンゼルス、ロンドン、東京で実施した TRWP に関する広範な大気試験の結果は、TRWP PM2.5 ミクロンの濃度は極めて低く、世界のいかなる国の人体向けの健康基準や規制基準値を下回っていることを示した。
- タイヤがライフサイクルにおいて及ぼす影響の理解をさらに深めるため、TRWP 中の特定の化学物質に関して追加毒性試験が実施されている。

新たなナノマテリアルがライフサイクルを通じて人体の健康及び環境に及ぼし得る影響

- TIP の技術支援を受けた OECD による研究では、タイヤ用に開発され、使用される可能性のある新たなナノマテリアルの影響を評価した。この研究結果は、新たなナノマテリアルが社会的、経済的にポジティブな影響をもたらすことを示した。

- また、この研究は製品のライフサイクル全体において人体の健康や環境にとって安全で新たなナノマテリアルの開発およびそのタイヤへの利用に関するベストプラクティスのフレームワークの概略をまとめた。

ライフサイクルアセスメント(LCA)を実施するための製品カテゴリールール(PCR)策定

- TIP はより具体的なガイダンスに沿った LCA を可能にする基準の公表を計画している。この基準は第三者専門家の検証を受けたものになる。また、この PCR を基にタイヤの環境製品宣言(EPD)を取得し、公表すれば、各 LCA の比較が可能となる。

報告に関する共通指標の策定

- TIP はタイヤの生産に関する 4 つの指標を策定した。それらは共通の形式で報告され、TIP 参加企業全体を包括的にまとめた結果として表される。その 4 つの指標は CO_2 排出量、エネルギー消費量、取水量、および ISO 14001 認証である。これらは TIP 参加企業のグループ全体としての進捗を示すものである。

廃タイヤ(ELT)の管理

- TIP は世界の多くの国々で、効果的な ELT 管理の推進に積極的に関与してきた。ELT 管理に関する主な課題は、これらの国々でタイヤを埋め立てず、有効利用へと転換することを確実にしていくことである。

- この取り組みには、中国やロシアにおいて、ELT がどう管理されているかをさらに理解する活動などが含まれる。

TIP(タイヤ産業プロジェクト)に関する詳細については WBCSD のウェブサイト(http://www.wbcsd.org/work-program/sector-projects/tires.aspx)を参照。

2015 年 CEO 会議 写真

前列 (左から)

1	Wilson Sonsini Goodrich & Rosati	Dr. Michael Rosenthal*
	ウィルソン・ソンシーニ・グッドリッチ＆ロサーティ法律事務所	ミカエル・ローゼンタール 氏
2	Bridgestone Corporation	Mr. Masaaki Tsuya
	株式会社ブリヂストン	津谷 正明 氏
3	WBCSD	Mr. Peter Bakker**
	WBCSD	ピーター・バッカー 氏
4	Group Michelin	Mr. Jean-Dominique Senard
	ミシュラングループ	ジャン＝ドミニク・スナール 氏
5	The Goodyear Tire & Rubber Company	Mr. Richard J. Kramer
	ザ・グッドイヤー・タイヤ・アンド・ラバー・カンパニー	リチャード・J・クレーマー 氏

*CEO 会議に同席した弁護士

**WBCSD 事務総長

後列 (左から)

1	Continental AG	Mr. Nikolai Setzer
	コンチネンタル AG	ニコライ・ゼッツァー 氏
2	Cooper Tire and Rubber Co.	Mr. Roy V. Armes
	クーパー・タイヤ・アンド・ラバー・カンパニー	ロイ・V・アームズ 氏
3	Hankook Tire Company	Mr. Seung Hwa Suh
	ハンコックタイヤ	ソ・スンファ 氏
4	Kumho Tire Company Inc.	Mr. Chang-Kyu Kim
	クムホタイヤ	キム・チャンギュ 氏
5	Sumitomo Rubber Industries, Ltd.	Mr. Ikuji Ikeda
	住友ゴム工業株式会社	池田 育嗣 氏
6	The Yokohama Rubber Company, Ltd.	Mr. Hikomitsu Noji
	横浜ゴム株式会社	野地 彦旬 氏